

# 校内研修計画

## 1 研究主題

主体的に考え、共に高め合う児童の育成  
～きくことから思考を深める授業づくり～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

学習指導要領の改訂の経緯として、「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と示されている。それから、改訂の基本方針として、「育成を目指す資質・能力の明確化」や『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進が求められている。また、令和3年答申より、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが示された。

よって、児童一人一人が主体的に考えること、友だちと共に高め合うことを教育活動の中心として児童の育成を進めていきたいと考え、研究主題を設定した。また、副主題「きくことから思考を深める授業づくり」を通して、きくことを大切にしたい授業改善を行い、子ども同士、教師と子供など学びをつなぎ、集団であることを生かし、学びを深めることを目指していきたい。

### (2) 児童の実態から

本校は、豊かな田園地帯にあり、児童は素朴で明るく、素直である。どんなことにも真面目に一生懸命取り組む児童が多く、学習面においても与えられた課題に真面目に取り組む児童や友だちと話し合うことが好きな児童が多い。また、昨年度から「きくこと」に重点を置いて授業改善に取り組んできて、自分の考えと友だちの考えを比較しながら、考えたり発表したりする児童が増えてきた。しかし、依然として発表の声が小さい児童や最後まではっきりと自分の考えを伝えられない児童もおり、受け身で消極的な面や自信がない面が課題である。

よって、ペアやグループ活動など学習形態を工夫し、自分の考えを伝え、友だちにきいてもらう経験を充実させることや友だちに認めてもらうことで自信をつけることを目指していきたい。子供たちが主体的に考え、対話をしながら深い学びを目指していく。

### (3) 本校のこれまでの実践から

本校では、令和元年から「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指し、「対象・他者・自分とつなぐ」支援を工夫した問題解決的な学習指導過程を重視した授業改善に取り組んできた。そして、令和4年度から研究主題「主体的に考え、共に高め合う児童の育成」とし、「対象・他者・自分とつなぐ」の中の「他者をつなぐ」支援に重点的に取り組むことにし、他者とのつながりを意識した「きき合い つなぎ 学び合う」授業づくりを目指してきた。「対話すること」を中心に教育活動を行ってきて、昨年度からは副主題を「きくことから思考を深める授業づくり」とし、友だちの考えをきいて自分の考えと比較したり、変容させたりする児童も増えてきて、話をよくきくことができるようになってきたと考えられる。今年度は、これまでの経験をもとに、児童自身が主体的に考え、友だちと交流することを通して、考えを広げたり深めたりすることに力を入れて取り組んでいきたい。そのため、思考を整理するための思考ツールや交流するときのICT機器の活動も積極的に取り入れていきたい。

道徳教育においては、学習指導要領で示されている「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」を推進するため、「きくことから思考を深める授業づくり」や支援の仕方の推進を図ってきたい。

### 3 研究主題について

#### (1) 「主体的に考える児童」とは

指示されたことだけを学習するのではなく、自ら課題を見つけ、その課題解決のために既習事項などをもとに自分なりの考えを出し、進んで課題解決に取り組む児童の姿をとらえている。

#### (2) 「共に高め合う児童」とは

児童一人一人が課題意識をもち、自分なりの考えをもって、友達と考えを伝え合い、話し合うことで、考えを深めたり広げたりして、よりよい考えや解決策を見出そうとする児童の姿をとらえている。

#### (3) 「きき合う」とは

- ・ 「聞く」・・・耳に入ってくる。聞こえる。無意識に聞いている状態。
- ・ 「聴く」・・・聞き取ろうとして聞き耳を立てる。話の内容を正確にとらえようとしてきく。
- ・ 「訊く」・・・相手に尋ねたり、問いただしたりしながら新たな考えを得るためにきく。  
本校では、耳や心を傾けて、相手が「何を伝えたいのか」と考えながらきいたり、「自分と同じところは」「自分と違うところは」と自分と比較しながらきいたりすることと捉えている。また、わからないことや疑問に思ったことなど、きいたことを質問しながら、考えを受け止めることと、捉えている。

#### (4) きき合う活動

- ・ 一人ひとりの考えを伝え合い、きき合い、質問や意見を通して自分の考えをより明確にする活動

### 4 研究内容

#### (1) 授業での受容的な学習の風土づくり

→ 友だちの考えを認める優しい雰囲気、安心して発言できる雰囲気づくり

○ きき方名人「あいうえお」

あいてを見て、いっしょうけんめいに、うなずきながら、えがおで、おわりまで

○ 話し方名人「かきくけこ」

かおを見て、きちんと分かりやすく、くちをしっかりと開けて、けい語で（～です。ます。）、こえの大きさを考えて

○ あいづちあいうえお

- ・ ああなるほど（共感）、いいですね（賛成）、うんうん（うなずく）、えがお、おお（拍手）

○ お互いの思いを肯定し合う・質問し合う関係づくり

- ・ 【意見】「わたしも〇〇さんと似ていて～思います。」

「わたしは〇〇さんとちがって～考えます。」

- ・ 【きく】「なぜそう思うのか、もし〇〇だったら、そのときの気持ちは、このような時は」

#### (2) 児童が語る授業づくり

授業の中で取り入れること

- ・ 自分の考えをもつ時間→可視化・表現の工夫（思考ツール）
- ・ 友だちの考えをきく時間→学習形態の工夫（ペア・グループ・一斉）
- ・ 自分の考えと友だちの考えを比較し、自分の考えを深めたり広げたりする時間

##### ① きき合う活動

○ 発表者とフロアの児童の考えの交流

- ・ 発表者とフロアをつなぐ。
- ・ フロアとフロアをつないで考えを交流させる。

○ ペア、グループでの話し合い活動

- ・ 低学年は、ペア活動を用いて、自分の考えを話す機会を充実させる。
- ・ 中学年は、グループ活動を用いて、自分の考えを話したり、友だちの考えの相違点に気づかせ、実感させたりする。
- ・ 高学年は、グループ活動の中で、考えを深めたり、広げたりしながらまとめて発表する。

- 教師からの問い返し
- リレー言葉で交流
  - ・ 質問「〇〇さんに聞きます。」
  - ・ 繰り返す「〇〇さんは、～と言いましたね。」
  - ・ 確認「〇〇さんの考えは、～ということですね。」
  - ・ 尋ねる「どうして・・・だと思えますか。」
  - ・ 認める「〇〇さんの考えの～がよくわかりました。」  
「〇〇さんの考えの～なところが、参考になりました。」
  - ・ 促す「～のところをもう一度詳しく説明してください。」
  - ・ 整理する「AさんとBさんの意見をまとめると～です。」
- ② 児童の考えを表出・整理する思考ツール
  - ・ ウェビングマッピング ・ 座標軸 ・ ベン図
  - ・ スケール ・ クラゲチャート ・ キャンディチャート
- ③ ICT 活動の効果的な導入
  - ・ MetaMoji のモニタリング機能を活用し、1人ひとりの思考を可視化し、考えを交流させる。
  - ・ 心の数直線（熊本市教育センター）

(3) 考え、議論する道徳に向けて

① 授業の流れ

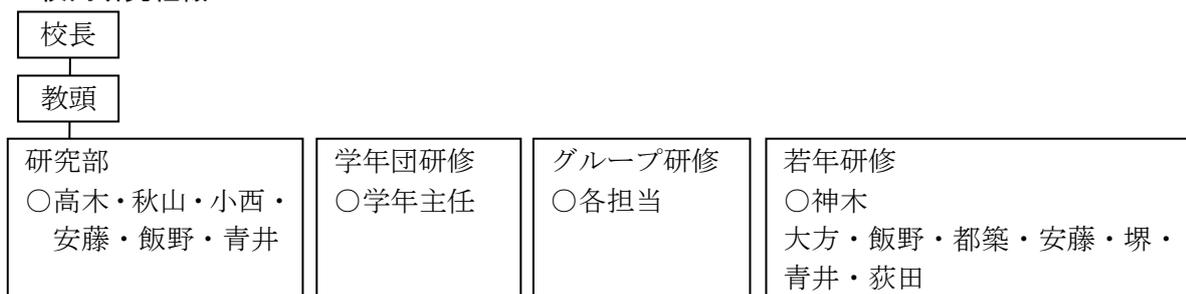
- ・ 導入「自己を見つめる活動」…他教科や行事をつなぐ。
- ・ 教材を把握し、課題をつかむ活動
- ・ 一人一人が考えを整理し、共有する時間…思考ツールを使って児童の思考を可視化する。  
… ICT 機器を活用しながら、多面的・多角的に話し合う。
- ・ 道徳的価値項目に迫る時間…きき合う活動
- ・ 振り返り「道徳的価値項目と自己をつなぎ、自己の生き方を考える活動」  
… 自己・行事・日常生活・集団（なかま）とつなぐ。

② きき合う活動

- ・ 低学年…ペア活動、役割演技 など
- ・ 中学年…グループ活動、友達の意見と相違点を理解しながら など
- ・ 高学年…グループ活動、児童同士で話を進め、教師は問い返しでより考えを深める支援をする。きき合いタイムでディベートを学ぶ。 など

☆ 道徳の授業で学んだことと実際の生活や行動がつながるようにする。

5 校内研究組織



低学年部会		中学年部会		高学年部会	
1年	2年	3年	4年	5年	6年
○小西 大方 堺 前川	○神木 飯野 大矢 田村 永井	○秋山 藤田 萩田 藤岡 田片 加治	○大山 高木 安藤 中村	○渡邊 都築 加福 小西恵 大西	○上坂 青井 鈴木 平野 本間

## 6 年間計画

- ・ 授業研究 三観小研授業 3本・・・ 2年、4年、6年（講師招聘）

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	3	10 校内研修 ・ 全体計画	17（職員会）	24（三観小研理事研修会）	
5月	1 校内研修 ・ 研究について ・ 指導案形式 ・ 実践について	8 校内研修 ・ 実践の計画 ・ 研究紀要について	15（職員会・特別支援校内委員会）	22（運動会予行） 25（土） 運動会	29 校内研修 ・ 全校授業（4年）
6月	5 校内研修 ・ 指導案検討（2年）	12 校内研修 ・ 指導案検討（4年）	19（職員会）	26 校内研修 ・ 指導案検討（6年）	
7月	3（屋島宿泊学習）	10 校内研修 ・ プレ研究会について	17（期末懇談会）		
8月	別途計画（AED講習会・研究会に向けて紀要作成・要請訪問の指導案づくりなど）				
9月	4 校内研修 ・ 要請訪問指導案検討	11（授業参観） ・ 要請訪問指導案検討	18（職員会）	25（修学旅行） ・ 模擬授業（2年）	
	若年模擬授業				
10月	2 校内研修 ・ 要請訪問の最終確認	9 校内研修 ・ 模擬授業（4年）	16（同学年研修会）	23（職員会）	30 校内研修 ・ 模擬授業（6年）
	4（金） 要請訪問	若年研修 三観小研授業			
11月	6 校内研修 ・ 各部会最終模擬授業	13 三観小研研究発表会	20（職員会）	27 校内研修 ・ 研究会の振り返り ・ 香川の教育づくりに向けて）	
12月	4 校内研修 ・ 研究会の振り返り ・ 香川の教育づくりに向けて）	11（マーチングバンド壮行会）	18 校内研修 ・ 研究会の振り返り ・ 香川の教育づくりに向けて）	26 香川の教育づくり発表会	
1月	8（始業式） ・ 学年団研修	15 校内研修 ・ 授業参観の準備	22（職員会）	29 校内研修 ・ 学習状況調査分析	
2月	5 校内研修 ・ 本年度の研修をふり返って ・ 研究のまとめ	12 校内研修 ・ 次年度構想	19（職員会）	26 校内研修 ・ 次年度構想	
3月	5（修卒認定会）	12（卒業式予行）			